

トピックス
1. 播州日誌「森保ジャパン」
2. 南国土佐を後にして 第6回

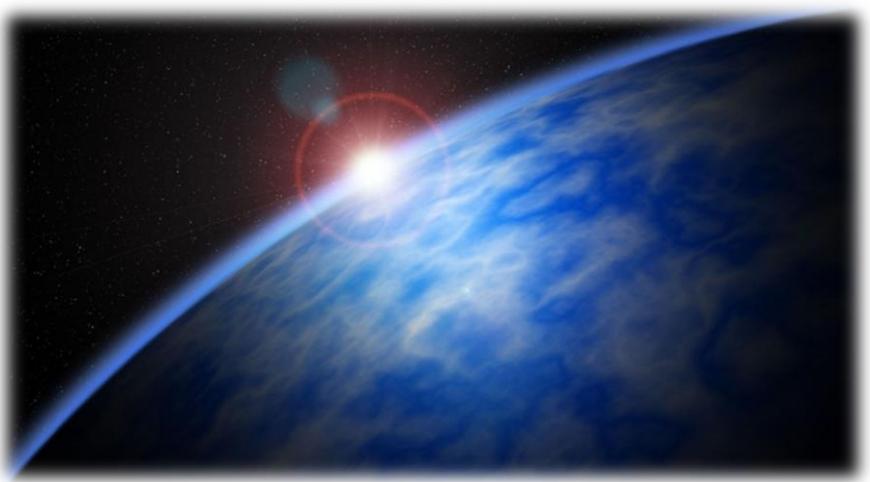


福留経営労務管理事務所  
★ 姫路龍馬会  
社会保険労務士・行政書士  
福留 章

龍馬通信	No. 61
	2023年 1月号

新年明けましておめでとうございます。

朝 5 時過ぎに起きて身支度をし、45 分ごろ家を出る。暗闇の中懐中電灯の明かりを頼りにいつもの道に行く。今頃の空気はきっぱりと厳しく寒い。吐く息の白さでその日の寒さを知る。冬の季節の楽しみは、時として美しい星空が見えること。私の事務所兼居宅は北を姫路バイパス、南を新幹線が走っており、夜中でも明るい。しかし、暗い側道を歩いて5分、天川の土手に出るとまっ暗闇となり星空が広がる。門外漢の私にはもう星座



の知識などない。ただ一際目立って明るいのは金星であり、赤く零れ落ちそうに瞬いているのは火星、そして木星。太陽をめぐる惑星たちの共演だ。果てしない宇宙を思うとき人は詩人となる。そして広大な宇宙を想うとき、自分という存在が砂漠の一粒の砂のように微小に感じられ命の不思議さを感じる。

宇宙の誕生は138億年前のことになる。それに比べて高度な意識を持つ人類の歴史は、せいぜい2000～3000年。にもかかわらず、愚かな人類は、学ぶことを知らず、欲望の渦の中で呻吟し、煩惱の業火は消えることを知らない。そして社会には悪がはびこり垂れ流され、極悪な犯行が後を絶たない。世界的に見ても地球環境の破壊はとどまることを知らず、気候危機は深刻化の一途をたどっている。限られた資源の中で発展途上国での人口増大が進み、世界の人口は80億人を突破した。よって地球上の資源枯渇が急速に進み、食糧危機と相まって人類の生存を脅かしている。さらには戦争や紛争が多発し、難民が増大するだけでなく無数の人々が餓死の危機に直面している。

絶望的な現実。何時になったら幸福な時代が来るのだろうか。

長い苦難の人生も宇宙的に見ればほんとに一瞬の人生。その中で人は一瞬の夢を見ているのかもしれない。コロナ禍の下女性の自殺者が増えているという。一瞬の夢ならば早く覚めてしまえと思うかもしれない。否、そこで立ち止まらなければならない。あなたにも私にも、生きとし生きるものすべてに生きる意味、大切な意味がある。だから生きねばならない。与えられた命を慈しみ、楽しむ。ほんの一瞬の人生。だからこそ1日1分を大切に、人の役に立つこと、人が喜ぶことを、小さなことでもいいから成し遂げる気持ち、そう愛に生きること。愛に生きた人はやがて愛に包まれて亡くなり、愛そのものの空間である、生まれ故郷に帰還する。生を受けた喜びと悲しみ、うまくいかないことが多くて、苦しいこと悲しいことどうにもならないこと、逆境を生き抜いてきたことを、良しとして、その苦難を忘れ老いを楽しむ。死を恐れることはない。肉体はやがて滅びることになっても、魂は生き続ける。先に亡くなった肉親や友人にも会える、話もできる。魂は形を変えて存在する。必ず存在する。

新年にあたってのご挨拶が随分難解な長いものになってしまいました。でもどうしても書きたかったのです。ともに苦しみ、ともに笑おうと。

新しい一年が始まりました。皆様にとって意義ある「学び」と「進化」の1年でありますことを祈念して、筆を置きます。

参考文献 田坂広志「死は存在しない」光文社新書

## 『龍馬と私』 ～ 龍馬の休日 ～

慶応3年（1867）9月30日 33歳。前日、6年振りに高知上町の坂本家に帰省。

龍馬は、子供のころから慣れ親しんだ、桂浜の小高い丘の上に立ち前面に広がる大海原を見つめていた。晴れわたった明るい陽光の中彼は眩しそうに目を細めていた。水平線は遠くわずかな弧を描いて広がっていた。懐かしい景色に包まれて、帰郷している自分がいた。わずか2日の滞在。明日は大阪に向けて浦戸を立たねばならない。寄せては返す悠久の波音。時々ドドンと響くのは、すぐ手前から海底が抉られているからだろう。白砂清松、こじんまりとした浜辺だが、そのバランスの良さが龍馬の好むところであった。竜王岬の松が南国土佐の真っ青な空に映えて美しく、松の枝を渡る風も頬に心地よい。龍馬は懐に手を入れて立っている。もう四半刻（30分）は立っただろうか。国情はまだ揺れ動いている。人間とは小さい者よ。この海の広がり大きさに比べたら。人生は短く儂い。ふと、そんな感慨を感じる。いろは丸の損害賠償請求は減額して決着がつきそうな感じ。大政奉還については、龍馬としてはやるべきことはやったと思っている。後藤象二郎が山内容堂を説得し、幕府大目付永井尚志を通じて將軍に建白する。後は徳川慶喜の決断一つにかかっていた。しかし裏では討幕の密勅が下る動きもあった。龍馬はそのことを知らない。

あとは、と龍馬は一息ついた。世界の海援隊。龍馬の頭の中には黒船（蒸気船）を手に入れ世界に雄飛する夢があった。交易、世界を相手に交易するためには、強い国、日本を作りあげねばならない。富国強兵、世界と対等に交易する事こそが日本を強くする。そうじゃ、世界の海援隊を作ることだ。彼の夢は確信となった。腹の底からふつつつと情熱のようなものがこみ上げてきた。龍馬はふと、わずか10日ほど前に下関に残してきた妻のお龍を思い出した。そうじゃお龍を外国へ連れて行ってやろう。そうそう乙女姉も一緒に。あの水平線を超えてまだ見ぬ国へ。珍しい人やものを見て、二人とも度肝を抜かすに違いない。龍馬は夢をつぶやき一人微笑んだ。一陣の風が吹き龍馬の袂（たもと）を揺らした。龍馬はもう一度思い出多い鏡川や種崎の浜辺を一瞥し、桂浜の絶景を胸にしまい込んだ。龍馬はすがすがしい気持ちで桂浜を後にした。明朝には、震天丸で大阪に向け浦戸を出港しなければならない。時代は龍馬を休ませてはくれない。そして、6年ぶりの帰郷が最後の帰郷となり、下関でのお龍との別れは永訣となる。京都、近江屋での龍馬暗殺事件は、このあとわずか45日後11月15日のことである。

さらに61年後の昭和3年（1928）。奇しくも龍馬が立っていた小高い丘の上に日本有数の龍馬像が建立された。像の高さは5.3m、台座を含めてその高さ13.5m。訪れた人はその大きさに圧倒される。

建立の費用は、龍馬の偉業を顕彰しようという、地元青年有志の浄財というものも龍馬らしくていい。

今日も龍馬は、目を細めて太平洋を遠望している。まっこと、海は大きゅうて、ええのう。とかなんとかつぶやきながら。





# 播州日誌

## 「森保ジャパン、ドーハの歓喜」

未だにコロナ禍にある日本。ウクライナ戦争の推移も予断を許さない状況で越年した。昨年の11月カタールで開催されたサッカーワールド大会も、12月19日の決勝戦で幕を閉じた。戦争と平和がないまぜになったような1年であった。何といても日本の活躍が、大会の前半を盛り上げたことは言うまでもない。「グローバル化」。コロナ禍 やウクライナ侵攻では悪役に回った「グローバル化」も、若い選手達にとっては、実力を高める要素になったようだ。「グローバル化」が日本チームを強くしたと解説した専門家がいた。代表選手の多くが20代前半という若さ。また既に欧米で活躍中の選手もいた。デジタル時代の申し子のような若い選手は、子供のころから、SNSに慣れ親しんでおり、リモートで強豪チームの有力選手の情報を多く得ていて、その分「恐れ」を知らない。堂々とした戦いぶりは、彼我の実力差の接近を感じさせてくれた。これまでの日本チームは攻撃力に難があり、例えば、1ゴールでも先行されると「もうダメだ」「やっぱりダメか」という、あきらめにも似た敗戦ムードがチーム内にあった。今大会では、ドイツ、スペインという格上のチームに先行されながら、後半の45分間に同点とし逆転するという胸のすくような勝ちっぷり。普段サッカーにあまり関心のない人まで巻き込んで、日本列島は沸きに沸いた。

半面、格下のコスタリカには惨敗。強気をくじき、弱きを助けるじゃないが、矛先が鈍ったようだ。お蔭で薄氷を踏むような予選通過となった。

本戦の初戦でクロアチアに惜敗した。歓喜の渦もここで断ち切られる。先行したが追いつかれ、延長戦30分を含む、120分を戦いぬいた。クロアチアの鉄壁の守りに、ゴールは遠く、ゴールを揺らすことができなかった。PK戦、手に汗握る攻防も、体力的に勝り、波にのるクロアチアの一方的な勝利となった。3-1。PK戦でボールをける選手が立候補で決まることを初めて知った。拍手を送ろう、勇気をもってボールをけた選手に。



相手キーパーは本当に調子よく、自信満々のように見えた。一瞬の判断が勝敗を決する。右か左か、上か下か。相手キーパーの選手が名選手であることは、後の試合でもPK戦を勝ち抜いたことでわかった。PK戦は紙一重。多くのチームがPK戦に泣いた。考えてみれば、120分の死闘を超えたうえでのPK戦。どちらが勝っても負けてもよく戦ったということである。熱狂と夢の続きは4年後に引き継がれる。多くの選手たちに惜しめない拍手を送りたいと思う。

「ブラボー」なシリーズであった。

2022.12.20

## ～南国土佐を後にして～

### 第6回 「高知編」生徒会長に当選

昭和36年から38年。中学生の3年間は、まるでお花畑にいるような感じであった。土佐中学校の入試に失敗して、落胆もしたが、公立中学が私にはあったのか、結果としてはそれがバネになってあらゆる面で頑張ることができた。生徒会には1年生から入り、2年生の時は副会長、3年生の時には生徒会長に選ばれた。立候補制で2～3人の候補者の中から選挙でえらばれるという本格的なもので、選挙活動期間もあり、校内に自分で書いた公約ポスターを貼り出したり、選挙演説もあった。原稿づくりも演説も嫌いではなかったので、まあ楽々当選ということになった。会長になると何かと学校を代表する行事にかり出されることがあった。学校訪問交流や警察のPR動画のモデルなど。1年生の時に校内弁論大会というのがあった。クラス代表に選ばれ出場することに。テーマは「不良化防止について」。世の中の見てはいけないもの、聞いてはいけない



ことには目と耳をふさぎ、誘惑に乗らないよう「見ざる聞かざる言わざる」を目標にしようという至ってまじめなもの。担任の先生から「見ても聞いても動じない」正しい気持ちを持つこと。と直すように指導された。緊張の中なるべく原稿を読まないようにして話したら、何となく認められて学内準優勝に選ばれ表彰された。父母の喜びようは半端ではなく、普段殆ど学校のことを気にしていない父親まで大はしゃぎであった。日頃から、どうしたら親が喜んでくれるか、大人たちに認められるかを考えていた私にとっては、本当に面目躍如という感じだった。3年生の頃「生徒会長の福留は生意気な奴だ」ということで、近くに住む元番長（卒業生）が制裁に来るとい噂が何度かあり、そのたびに現番長であるI君が守ってくれ、ひそかに塀を超えて脱走し、家まで逃げ帰ったことがあった。先生たちが手を焼いているクラスがあり、「福留何とかならんか」と相談されたこともあったが、まじめ一本だった私にそんな力もなく、無力感の中で見てみないふりをすることもあった。3年間ずっとNJさんと交際したが、至ってプラトニックなもので、手を触れることすらなく、せいぜいフォークダンスで手を組む程度だった。映画を見に行ったり誕生日プレゼントを交換したりということだった。一度だけ友人宅でかくれんぼのようなことをして偶然、風呂場で鉢合わせをして、体を寄せて隠れたのが最接近という具合。時代はまだそんなに性について寛容ではなく、不純異性交遊という言葉が一般的に使われていた。彼女とは、高校が別になって自然に解消したが、スレンダーな体にポニーテールがよく似合う少女だった。小さな顔が今でも思い出される。



## 新型コロナウイルス感染症にかかる傷病手当金の届出について

少し前までは新型コロナウイルス感染症についての傷病手当金受給には医師の証明または My HER-SYS で発行された療養証明書の添付が必須でした。しかし令和 4 年 9 月 26 日以降厚生労省より見直しが行われ、My HER-SYS で療養証明書が発行できるのは下記のいずれかに該当する方のみとなっています。

① 65 歳以上の方 ② 入院を要する方 ③ 重症化リスクがあり、かつ、新型コロナウイルス治療薬の投与が必要な方または重症化リスクがあり、新型コロナウイルス罹患により新たに酸素投与が必要な方 ④ 妊娠中の方

では…『医師の証明またはマイハーシスの療養証明書が出ない場合の申請はどうすればいいの?』

傷病手当金支給申請書の 2 ページ被保険者記入用の申請内容③の発病時の状況にできるだけ詳しく療養状況をご記入ください!

(例) 12/1 新型コロナウイルス感染症陽性反応  
12/1~12/4 発熱(38.5 度前後)、倦怠感、咽頭痛、咳あり  
12/5~ 徐々に症状軽快 微熱程度、咳、咽頭痛、鼻水症状あり  
12/9 職場復帰

※新型コロナウイルス感染症にかかる傷病手当金の申請については 3 日の待期間を除いた部分が支給対象となりますので、有給休暇がたくさん余っていらっしゃる方については有給休暇でまかなっていただく…というのも 1 つの方法です。

### ～ 傷病手当金を申請する際のポイント ～

- ① 仕事とは関係のない病気やケガの療養のための休業であること
- ② それまで就いていた仕事に就くことができないこと
- ③ 4 日以上仕事に就けなかったこと(初日から 3 日間は待期間です。有給処理でも可。)
- ④ 休業した期間について給与の支払いがないこと(欠勤控除がないと申請できません。)

ご不明の際は、お問い合わせください♪♪

